



# かけはし

第 11 号

平成30年 3月 1日

ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

## よい夢がよい人生を導く

校長 川崎 直人

いよいよ3月になりました。16日には6名の卒業生が本校を巣立って行きます。6人の前途が幸多いことを願わずにはいられません。

さて、先月は、ピョンチャンオリンピックで大いに盛り上がりました。道産子の活躍も素晴らしく、私たちに夢と希望を与えてくれました。どの選手も小さい頃からオリンピックで活躍する夢をもち、それを実現し夢舞台に立っていました。羽生選手の演技に涙したのは私だけではないでしょう。

それを見て「人間は夢を達成するために、目標を定め努力する動物だ」という言葉を思い出しました。

成績のあまりよくない子どもが、自分は頭が悪いと思い込み努力しなくなることがあります。人間は、目標をもたずに、無駄な時間を過ごしていると、けっして伸びていきません。人間の脳には「海馬」という部分があり、この部分は「記憶の司令塔」と呼ばれ、人に愛されることによって、発達する部分です。

ところが世の中には、愛されていると感じていない子どもがとても多くいることも事実です。もしも愛されていると感じ努力すれば「海馬」が発達しないわけがありません。「脳細胞は自分の思うように配列する」と言われます。夢を描き、目標を達成したいと思う脳細胞は、その実現のために、活発に活動し、配列するそうです。そのことが、行動につながり、行動の積み重ねが習慣になります。

さらに、その習慣が子どもの性格を形成していきます。つまりよい夢・よい思いは、よい人生を導きます。智恵文小学校のすべての子どもたちが自分の力を信じ、力を出して、努力するようになって欲しいと思います。

自分のことを真剣に考えるためには、自分をよく知らなければなりません。考えたことを言葉として表現することによって、さらに力のあるものになります。自分の人生は自分で決めていくという意識が、今子どもたちには大切なことだと思います。そしてそれを支援する親の心がけとは、愛情をきちんと伝えていくことです。本校の子どもがもっている夢の実現に向けて家庭・地域・学校が連携・協力していかなければなりません。これこそがコミュニティー・スクールの理念ではないでしょうか。

今年度も残すところあと一月となりました。最後まで本校の子どもたちが夢に一步でも近づけるように支援していきます。

